

その他 ご意見・感想など（勉強会終了後のアンケートなどの抜粋）

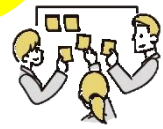
勉強会を終えての感想

- ・他地区の事例紹介もあり、高砂と共通する部分が多々あると思いました。
- ・参加者の皆様が、高砂のまちの将来に対して強い思いを持っていて、とても刺激になりました。
- ・ワークショップでグループのメンバーの皆さんの熱い思いが聞けたのはとても良かったです。
- ・時間にゆとりがほしかった。まとめの時間を考えないと話し合いの意味がない。

その他のご意見・ご要望など

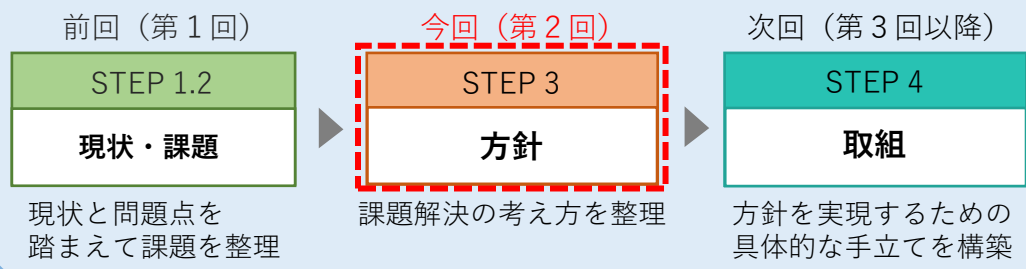
- ・対象エリアの考え方が分からない。北側にもっとエリアを広げるべきではないか。
- ・対象エリアから外れている方への呼びかけや情報発信をもっと行うべきだ。
- ・若い人の意見を聞いてほしい。
- ・同じ地区に住む方の生の声をもっと聞きたいです。
- ・事前に準備出来るような宿題があっても良いと思います。

ワークショップの進め方



前回（第1回）の勉強会で出していた高砂地区の「現状・課題」をもとに、今回（第2回）はワークショップ形式で高砂地区の目指すべき「まちづくりの方針」について意見交換などを行いました。

高砂地区のまちづくりを考えるための4つのSTEP



ワークショップとは？



一般的には、共同で何かをつくりあげる場という意味で、参加者全員が主体的に自ら進んで発言したり、共に何かを学びあい、目標に向かって共同で創造していく方法です。

次回（第3回）の勉強会について

テーマ：～都市基盤の整備とまちづくりを考える～

- ・連続立体交差事業を見据えた交通ネットワークの考え方
道路、公園などの都市基盤の役割と交通ネットワークの考え方を事例も交えて学ぶ。
- ・駅前広場及びアクセス道路に求められる機能を勉強



日時：令和5年10月4日(水) 19時から

場所：高砂地区センター 3階ホール

※ 勉強会会員の方には、別途、開催案内を送付いたします。

発行元：高砂地区開発協議会 会長 関根芳夫

協力：葛飾区 都市計画課 高砂地域整備担当係 黒崎、松本、鈴木

<連絡先> 電話：03-5654-8344(直通) FAX：03-3697-1660

HP：「高砂地区開発協議会について」



<HPはこちら>

高砂地区

まちづくり勉強会ニュース

第2号
令和5年9月

令和5年3月に開催した第1回に続き、第2回の勉強会を開催しましたので、その内容をお伝えします。
なお、この会は、高砂地区開発協議会主催の勉強会となります。

第2回 高砂地区まちづくり勉強会

日時：令和5年6月28日（水）

場所：高砂地区センター 3階ホール

参加者：勉強会会員 35名

（自治町会及び商店街からの推薦者及び一般公募者）

内容：『連続立体交差事業とまちづくりを考える』をテーマに開催



【第2回勉強会の様子】

当日は、会の前半で連続立体交差事業とまちづくりを同時に進める他地区の事例を学び、後半はワークショップ形式で、高砂地区の目指すべき「まちづくりの方針」について意見交換などを行いました。

連続立体交差事業とは？

市街地において道路と交差している鉄道を一定区間連続して高架化又は地下化することで立体化を行い、多数の踏切の除却や新設交差道路との立体交差を一挙に実現する都市計画事業です。

期待される効果

- ① 踏切遮断による交通渋滞及び踏切事故が解消される
- ② 鉄道により分断されていた市街地の一体化を図ることができる
- ③ 都市の再生、活性化に強いインパクトを与える
- ④ 立体化により生み出された空間を多目的な形で利用できる
- ⑤ 鉄道輸送の安全性の向上等に寄与

<連続立体交差事業のイメージ>

【京成押上線(押上駅～八広駅間)明治通り】



写真：東京都建設局
2016年5月11日報道発表資料より

紹介した他地区の事例

東武東上線大山駅周辺地区（説明の主旨）

- 現在、連続立体交差事業とまちづくりが同時進行で進められている地区。
- 大山駅周辺地区まちづくり協議会がまとめた「大山駅周辺地区まちづくりマスタープラン」を反映して、板橋区が行政計画「大山まちづくり総合計画」を策定。これを基本として、様々な事業が連携して進行中。

基本方針（大山駅周辺地区）

- ・鉄道による市街地分断の解消
- ・都市計画道路 補助第26号線の整備と沿道のまちづくり
- ・駅周辺のまちづくり（駅前広場の整備など）

高砂地区で検討を深めたい課題

- ・分断された市街地の一体化を図る
- ・交通結節点機能の強化とともに、一体的なまちづくりを進め、まちの活性化を図る（駅前広場・アクセス道路、3つの拠点エリア、ネットワーク形成）
- ・7つの土地利用ゾーンの適正なまちづくり

↑ 共通の課題 ↓



補助第26号線の整備が予定される街区の様子



大山駅 駅前広場予定地の様子
写真：2023年6月撮影



池袋駅から3つ目の駅(普通電車のみ停車) 対象エリア：約81ヘクタール
図：大山駅周辺地区まちづくり検討範囲より

ワークショップ まちづくりの方針(案)《まとめ》

当日のワークショップは、4班に分かれて、5つのテーマから1つを選び、意見交換を行いました。そして、最後に各班からテーマ毎に、目指すべき「まちづくりの方針(案)」について発表を行いました。

1.意見交換＜当日の意見＞

※当日の意見（付箋コメント等）を可能な限りそのまま記載していますが、一部読みやすいように修正しました。また、いただいた意見についてキーワード別に分類しました。

(1)交通ネットワークについて	(2)まちの活性化について	(3)住環境について	(4)自然環境について	(5)防災について
<p>交通ネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩行者、自転車が安全に移動できるまち 回遊できる交通網が必要 鉄道側道をしっかりつくる(災害時の安全) 駅からアクセス道路の東側にも安全に行き来できるようにする <p>安全・快適な移動</p> <ul style="list-style-type: none"> 車と歩行者、自転車の分離したまち 人と車の交通が分離された、区画整備された街並み <p>スムーズな乗り換え</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅前ロータリーの整備 バスロータリーを南北で繋げる 京成高砂駅と新金線高砂駅(仮)がスムーズに乗りかえられるまち <p>新たな交通機能</p> <ul style="list-style-type: none"> コミュニティバスの運行 バスによる新しい交通ネットワーク 駅周辺に一時駐車できるスペースの確保 葛飾を南北につなげる交通機能 <p>幹線道路の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 道が狭い 太い幹線道路は都市の安全のためにも必要(避難、火災分断のため) 東西の広い道路が防災性向上につながる <p>鉄道の立体化・駐輪場</p> <ul style="list-style-type: none"> 早く高架になると良い バス停、高砂駅、公園、中川の土手付近に広い駐輪場を確保してほしい、高架下とかいい 	<p>商業の賑わい</p> <ul style="list-style-type: none"> 魅力的な商店の形成 南北交流の活性化 商店を増やしていく 昔からの商店街の雰囲気を残してほしい <p>歩いて楽しい</p> <ul style="list-style-type: none"> 楽しく食事ができるレストランをつくる 柴又に来た人々が寄り道できるようなまち 駅ビルや高架下利用 アーケード 駅からリビングスクールへ連結デッキなどでつなぎ、利便性を高くする <p>出会い・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> 企業を呼び込む 高砂の昼間人口を多くする 羽田、成田の中間にある立地を活かすべきでないか <p>目的地</p> <ul style="list-style-type: none"> まず高砂に目を向けてもらう必要があり、高砂を知ってもらうイベントを開催する 鉄道(京成電鉄)をテーマにしたまち 駅前を再開発し、バスや車の利便性を上げる <p>滞在</p> <ul style="list-style-type: none"> 京成高砂駅は終点駅であり、空港利用者にとってホテルがあると便利 <p>誇り</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供、若者にとって自慢できるまち 高砂という名前にふさわしいまち 知名度が低いので「高砂」を有名にする 	<p>子供たちの遊び場</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供たちが安心して自由に遊べる場所 京成電鉄の車庫の跡地を交通公園のように整備して子供も大人も楽しめる公園にする <p>くつろげる場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供とお茶を飲める場所 ベンチ等を増やして散歩しやすい環境づくり <p>高齢者も住みよいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 買物弱者が多い地域でもあるので、高齢者も住みやすいまちづくり 散歩が気軽にできる安全なまち 旧家も多いので、新旧の特色が出る面白いまちづくり <p>文化的なまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 川と緑、そして文化的なまち 駅前のマンションより高い建物は建せず、景観を守っていきたい <p>安心して暮らせるまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 人がまちを守るのではなく、まちが住民を守る、そんなまちづくりをしたい 医療体制の充実を図る、24時間対応の総合病院があったらよい 病院、保育所など社会的なインフラが整っているとよい 	<p>自然豊かなまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 歩いて訪れたい自然環境→河津桜・菜の花 公園と駅が一体化できるようなまち 緑が少ないため増やしてほしい(街路樹もない) <p>水辺を活かしたまち</p> <ul style="list-style-type: none"> 水辺を活かしたまちづくり(ドッグラン等) 川沿いが憩えるまち(船カフェ・お昼寝等) 河川を活かしたまちづくりを進め、景観、治安にも留意する 川沿いのプロムナードを快適に歩けるまち(プロムナードの連続化) 川辺を活かして緑のゾーンを多くして、さまざまな生物がいる場所にする(釣り) 	<p>水害</p> <ul style="list-style-type: none"> 海拔ゼロメートル地帯、堤防嵩上げを行う 液状化を防ぐ対策が必要 水害の防止 高い場所が無いので、いざと言う時に、どこに避難すべきかわからない <p>震災</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害時に逃げ込む場所があるまち 電線の地中化も必要 備蓄倉庫も必要 <p>火災</p> <ul style="list-style-type: none"> 消防車の通行や避難できなさそうな道が多い <p>避難場所</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難所=小中学校であります。駅も避難所として活用できるようになればよい 避難所にエレベーターがあれば車イスの方も動きやすい 民間マンションの利用 駅ビルが防災場所になるなら具体的にどうなるか早く知りたい 水害時、避難警報が出た時、避難できる高い施設がほとんどない→避難施設があるまち

2.各班からの発表 ＜まちづくりの方針(案)＞

※当日は「まちづくりの方針(案)」について、丁寧にまとめる時間がありませんでしたので、事務局で取りまとめさせていただきました。

<p>「だれもが安心して回遊できるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> 安心して回遊できるまちにしたい。 駅前広場を整備して、バスの利便性を高めたい。 バス・タクシー・コミュニティバス等が連結された、スムーズに移動ができるまちにしたい。 都市の安全性を高めるために幹線道路の拡幅整備を進めたい。 	<p>「歩いて楽しく、訪ねてみたい賑わいのあるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> 駅周辺の一体化を図り、歩いて楽しい賑わいのあるまちにしたい。 活気のある魅力的な商店街にしたい。 ホテルなどを誘致し、昼間人口を増やし、交流の場を増やしたい。 鉄道の活用や各種イベントを開催するなど、訪れてみたいまちにしたい。 子供や若者が誇りや愛着の持てるまちにしたい。 	<p>「昔ながらの情緒が残る文化的で住みやすいまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> 子供が安心して遊べる公園の整備。 多世代の憩いの場所がある、住みよいまちにしたい。 豊かな自然の残る文化的なまちにしたい。 情緒ある環境を守り、景観を大事にしたまちづくりが必要。 安心して暮らせる社会インフラの整備が必要。 	<p>「豊かな自然を活かした多世代が憩えるまち(※)」</p> <ul style="list-style-type: none"> 街の中にも四季を感じられるまちにしたい。 街路樹などを植えて、緑の多い街並みにしたい。 水辺を活かしたまちづくりがしたい。 プロムナードやベンチがある快適な水辺空間にしたい。 <p>※今回は、このテーマを担当する班がいませんでしたので、当日いただいた意見をもとに事務局が取りまとめました。</p>	<p>「人も自転車も車もスムーズに避難できる場所があるまち」</p> <ul style="list-style-type: none"> 海拔ゼロメートル地帯なので、水害対策をしっかりしたい。 災害時に避難できる場所として駅ビルなどを整備して活用できればよい。 緊急車両の通行や避難経路となる道路の整備が必要。 民間の施設も含め避難場所の確保は大事。 交通弱者の避難のためにエレベーターがあるとよい。
--	--	---	--	---